

疫病と呼ばれた男

シリーズ～続 福音の力～

2021/11/7

これまでのおさらい

- パウロ、エルサレムで捕らえられる(21-22章)
 - 小アジアから来たユダヤ人たちが騒ぎ立てた
 - エルサレムの人々に改心の証しをする
- 最高法院で語る(23章)
 - 大祭司を糾弾し、混乱させて終わる
 - パウロを殺そうとする陰謀が発覚する
- カイサリアのローマ総督のもとへ送られる
 - エルサレムの千人隊長が自分の手には負えないと判断したため

使徒言行録 24章1～9節

五日の後、大祭司アナニアは、長老数名と弁護士テルティロという者を連れて下って来て、総督にパウロを訴え出た。パウロが呼び出されると、テルティロは告発を始めた。「フェリクス閣下、閣下のお陰で、私どもは十分に平和を享受しております。…**実は、この男は疫病のような人間で、世界中のユダヤ人の間に騒動を引き起こしている者、『ナザレ人の分派』の主謀者であります。**この男は神殿さえも汚そうとしましたので逮捕いたしました。…」他のユダヤ人たちもこの告発を支持し、そのとおりであると申し立てた。

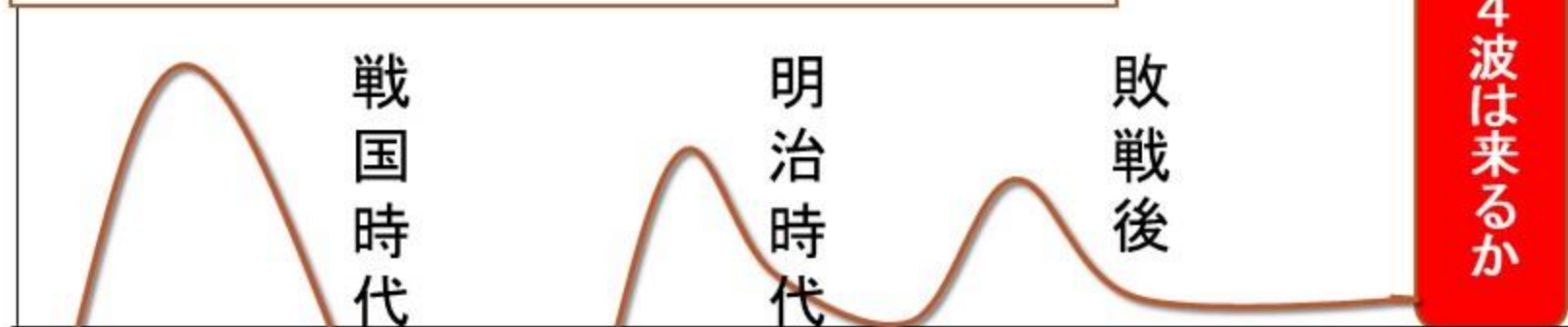
「疫病のような人間」

- 「疫病（伝染病）」は古代から恐れられていた
 - 出エジプトの10の災いの一つ・「重い皮膚病」など
 - その原因は19世紀になるまで分からなかった
- テルティロはパウロを「疫病のような人間」と表現した
 - 強烈な伝染力を持つ有害な人間である
- パウロが疫病なのではなく、パウロが伝えていた**福音**こそ疫病のようであった
 - わずか数十年の間に地中海世界全体に広まった

疫病と福音の比較

疫病	福音
目に見えない	目に見えない
人から人へ感染する	人から人へ伝えられる
短時間で広まる	短時間で広まる
命を奪う	永遠の命を与える

日本における福音感染の波



「世界中のユダヤ人の間に騒動を引き起こしている者」

- なぜパウロが騒動の原因になったのか
 - パウロが律法を守らなくても良いと教えている、と誤解していた➤ **国際指名手配犯**？
- 律法を守ることはユダヤ人の命
 - 律法を守ることが神の民の証
 - 律法を守ることで異邦人の支配から解放され、ダビデの頃のような繁栄を取り戻せると思っていた
 - だから、パレスチナを離れても必死で律法を守っていた

福音による解放

- 福音によってこそ神の民となれる
 - 「あなたがたがモーセの律法では義とされえなかったのに、信じる者は皆、この(イエス・キリスト)方によって義とされるのです。」使徒13:38-39
 - 「義とされる」とは正式な神の民となること
- 異邦人からの解放ではなく罪からの解放
 - 「キリスト・イエスによって命をもたらす霊の法則が、罪と死との法則からあなたを解放したからです。」ローマ8:2

「『ナザレ人の分派』の主謀者」

- 「ナザレ人」とはもちろんイエス様のこと
 - ガリラヤのナザレはイエス様の出身地
 - “田舎者”というあざけりの意味も込められている
- 「分派」という呼び方はテロ集団を暗示している
 - ユダヤ人の反乱を最も恐れていたローマ総督に対して、パウロの危険性をアピールするための呼び方
- パウロはローマの権威に従うよう教えている
 - 「人は皆、上に立つ権威に従うべきです。神に由来しない権威はなく、今ある権威はすべて神によって立てられたものだからです。」ローマ13:1

パウロがしかけたテロとは

- パウロはローマ帝国だけではなく全世界(全人類)に対して責任を感じていた
 - 「わたしは、ギリシア人にも未開の人にも、知恵のある人にもない人にも、果たすべき責任があります。」ローマ1:14
- パウロは武力によってではなく福音によってすべての人を救おうとした
 - 「わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、**信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。**」1:16

世紀の大犯罪人パウロ

疫病のような男

福音を伝えて

国際指名手配犯

罪から解放し

テロリスト

全世界を救う

目指せ、小さな犯罪人！